1 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成24年1月31日

【事業所概要(事業所記入)】

[事余//] 陇女(事余//] 即八八					
事業所番号	3474800376				
法人名	社会福祉法人 優輝福祉会				
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム みら屋				
所在地	広島県三次市三良坂町三良坂1789番地の2 (電話) (0824)44-3008				
自己評価作成日	平成23年12月13日 評価結果市町受理日				

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3474800376&SCD=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成24年1月24日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様本位の個別ケアと、四季折々の自然の中で五感に積極的に働きかける取り組みをベースにしています。職員はご利用者様のパートナーとして「一緒に大笑い 楽しい一日ありがとう」を合言葉に、ご利用者に寄り添い、共に暮らしていく家族の様に、住み慣れた我が家となることを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

- ・全職員が理念や事業所の方針などの目的を理解し、実践しようという「共通の意識」を持ち日々の支援に取り組んでいる。また、全職員が入居者に対し信頼と尊敬を感じ、安心感を持てる職場環境の中で、持てる力を発揮している。
- ・人権の尊重と障がい者雇用の取り組みなど、多様な人材が活躍できる風土が醸成されたなかで、利用者・家族への支援に取り組んでおり、安心と信頼が得られている。
- ・ホームは民家を改装したメリットを活かした温かみのある雰囲気で、自然を感じさせる造りとなっている。事業所は、職員の明るさや笑顔が利用者にも繋がると考えており、職員が実践するなかで利用者の方々は穏やかな表情で過ごされている。

白己	外部	部 項目	自己評価	外部	評価		
評価	評価		実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容		
ΙΞ	里念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	の理念を、毎年事業計画やパンフレット にも掲載し、少しでも実現できるように 取り組んでいる。 日常の場合、申し送	法人理念のもとに、毎年度策定する事業計画の中で活動目標を決めて支援に取り組んでいる。 理念にそった支援として、利用者が普通に日常生活が送れる環境を提供できるよう、毎月の職員会議等で話し合い、振り返る機会を持ちながら支援している。			
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩や散髪に出かけた時、声をかけたり している。地域の行事(お祭りやとん ど、運動会等)に参加したり、中学校の 職場体験実習を受け入れている。	散歩や買い物で顔見知りの近所の方々と 挨拶を交わし、地域行事へも積極的に参 加したり見学に出かけている。 地域の中学校や保育所との交流や、法話 に来ていただくなど、利用者の楽しみや 繋がりが途切れない取り組みがなされて いる。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	取り組んでいるが、あまり積極的ではない。				
4	3	〇運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービス の実際、評価への取組み状況等につい て報告や話し合いを行い、そこでの意 見をサービス向上に活かしている。	利用者や御家族,それぞれの立場からの 意見や思いも、会議の中で述べて頂き、 サービス向上にいかしている。				
5	4	〇市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	要介護認定更新時等、市役所(支所)に 行った際、担当課や担当者と話をすることがある。 運営推進会議に来られる市の職員と連絡を取って、積極的にケアサービスの取り組みを伝えて協力関係を一歩ずつ築いている。	報告や相談を行うなど、協力関係作りが			

自己	外部	R _	自己評価	外部	評価
評価	評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密 着型サービス指定基準及び指定地域密 着型介護予防サービス指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を 正しく理解しており、玄関の施錠を含 めて身体拘束をしないケアに取り組ん でいる。	開けたら音がするようにしたり、職員が 目配り、気配りをするように心がけてい る。	勉強会を行っている。 拘束につながる言動が見られた場合は、 その都度注意を促し、職員が理解できる ように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等 について学ぶ機会を持ち、利用者の自 宅や事業所内での虐待が見過ごされる ことがないよう注意を払い、防止に努 めている。	法人内の研修や外部の研修等で学び、また、事業所会議、申し送り等で勉強会を 開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内の研修や外部の研修等で学ぶよう にしているが、まだまだ不十分である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結,解約又は改定等の際は, 利用者や家族等の不安や疑問点を尋 ね,十分な説明を行い理解・納得を 図っている。	契約書、重要事項説明書に明記し、入居時に説明し同意を得ている。また、必要に応じて御家族に説明したり、話をして、理解を深めてもらう機会を持つようにしている。		
10	6	〇運営に関する利用者, 家族等意見の反映 利用者や家族等が意見, 要望を管理者 や職員並びに外部者へ表せる機会を設 け, それらを運営に反映させている。	面でも耳を傾ける様努力している。 また、法人全体の取り組みとして、アン	がけており、家族の面会時などに意見や 要望を聞いている。 出された意見や要望は、事業所全体で改 善策等を検討し、結果を速やかに家族に	

白己	外部		自己評価	外部	評価	
評価	評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容	
		○運営に関する職員意見の反映	行い職員の思いや意見を聞ける様にして	日々の会話や個人面接で、職員の意見や 気づきを聞く機会を設けている。 また、管理者は介護現場に入り職員との		
11	7	代表者や管理者は,運営に関する職員 の意見や提案を聞く機会を設け,反映 させている。	議等でも意見交換している。	関わりを多く持ち、提案を出しやすい関係作りに努めている。		
			法人全体で人事考課制度を導入し、年2 回行っており、個々の努力や実績が反映 される様に努めている。			
12		代表者は、管理者や職員個々の努力や 実績、勤務状況を把握し、給与水準、 労働時間、やりがいなど、各自が向上 心を持って働けるよう職場環境・条件 の整備に努めている。				
		○職員を育てる取組み	必要に応じて外部の研修に参加している。法人全体で研修体系があり、新人研修・現任者研修など研修の機会を確保し			
13		代表者は、管理者や職員一人ひとりの ケアの実際と力量を把握し、法人内外 の研修を受ける機会の確保や、働きな がらトレーニングしていくことを進め ている。	ド・5年旬前になる前にの成立を確保している。			
		〇同業者との交流を通じた向上	外部の研修に参加したり、他事業所の実習の受け入れを行ったり、職員が同業者			
14		代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	と交流する機会を持っている。			
II 🕏	Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
		〇初期に築く本人との信頼関係	入居前から本人と事前面接を行ったり、 入居後も新しい環境に慣れて頂けるよう に、声掛けをしたり、傾聴に取り組んで			
15		サービスの利用を開始する段階で、本 人が困っていること、不安なこと、要 望等に耳を傾けながら、本人の安心を 確保するための関係づくりに努めてい る。	NS.			
L	1					

外部		自己評価	外部	評価
評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
	サービスの利用を開始する段階で、家 族等が困っていること、不安なこと、 要望等に耳を傾けながら、関係づくり に努めている。	が、現場に関わて頂けるように、戸街けや状況報告をしている。		
	〇初期対応の見極めと支援	現在の状況や本人・家族の思いを聞き、 状況に応じて他のサービス機関と連携を とっている。		
	サービスの利用を開始する段階で,本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め,他のサービス利用も含めた対応に努めている。			
		「一緒に大笑い・楽しい1日をありがと う」をモットーに、昔ながらの調理法を 教えて頂いたり、芸話を関いたり、歌を		
	職員は、本人を介護される一方の立場 に置かず、暮らしを共にする者同士の	習ったり、一緒に過ごす時間を大切にしている。また、口腔ケア、洗顔時に鏡を見て、一緒に笑えるよう日々を過ごしている。 言葉 (会話) を耳のみで聞かず、心で聞く事を心がけている		
	〇本人を共に支えあう家族との関係	的に入居中の様子を手紙で伝えている。		
	職員は、家族を支援される一方の立場 に置かず、本人と家族の絆を大切にし ながら、共に本人を支えていく関係を 築いている。	がら、本人が安心して生活して頂けるように協力し合っている。		
	○馴染みの人や場との関係継続の支援	だけるよう声を掛けている。また、今ま	者の話から思い出の場所等を想定して、	
8	本人がこれまで大切にしてきた馴染み の人や場所との関係が途切れないよ う,支援に努めている。	る様支援している。	もらう機会を作っている。	
		評価 ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等等との行動を関係で、とりの利用を開始するでで、とりのである。 ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階でで、とりのである。 ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始するものでで、とりのである。 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、でいる。 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の可に係を築いている。 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される神どの関係を発いている。 ○本人を共に支えあう家族との関係 の本人を共に支えあう家族との関係 の本人を共に支えあう家族との関係 の本人を共に支えあう家族との関係 本人がよりいる。 ○別染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた別いよいよの人や場所との関係が途切れないよ	###	外部 「項目 東施状況 「大居前から本人や家族と事前面接を行ったり、元を強いしたり入居後も新しい現境に慣れて頂けるように、声掛けや状況を確認したり入居後も新しい現境に慣れて頂けるように、声掛けや状況をでいる。と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係でくりに努めている。 「初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 「一緒に大笑い・楽しい1日をありがとう」をでいる。 「一緒に大笑い・楽しい1日をありがとう」をでいる。 「一緒に大笑い・楽しい1日をありがとう」をでいる。 「一緒に大笑い・楽しい1日をありがとう」をでいる。また、自語で明的たり、歌を習ったり、一緒に過ごす時間を大切にしな。また、自語です時間を大切にしな。また、自語ですり、変を習ったり、一緒に過ごするよう日本を過ごしている。また、全まのといは、人居前の様子を手続で気えている。 「本人を実に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の辞を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。 「本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場との関係継続の支援 「「降や友人の方にも度々面会に来でいた利用者の方々から住んでいた家など利用だけるよう声を掛けている。また、今まで参加しておられた文化活動に参加出来る検索を行い、昔を懐かしんでもなり、で参加しておられた文化活動に参加出来る検支援している。

白己	外部	_	自己評価	外部	評価
評価	評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し,一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い,支え合えるような支援に努めている。	利用者の間に職員が入ってコミュニケーションを取りやすくしている。 座る席を工夫したり、利用者同士がお互いに「ありがとう」と言えるような声掛けを職員が行うようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても, これまでの関係性を大切にしながら, 必要に応じて本人・家族の経過をフォ ローし,相談や支援に努めている。	状況に応じて家族へ連絡したり、他の機 関との連携をはかるようにしている。		
ш ₹	の人は	らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望, 意向の把握に努めている。困難な場合 は,本人本位に検討している。	の生活歴を尋ねたりしながら、本人の今	思いを伝えることが困難な方には、家族か	
24		Oこれまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方,生活環境,これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の事前面接や、入居後にも今までの生活歴を尋ねたりしながら、本人の今までの暮らし方が継続出来る様努めている。また、御家族からも今までの生活の様子を詳しく聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握一人ひとりの一日の過ごし方,心身状態,有する力等の現状の把握に努めている。	日々の申し送りや記録等を通じて現状を 把握し、安心して過ごして頂けるよう支 援している。		

白己	外部		自己評価	外部	評価
	評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
		〇チームでつくる介護計画とモニタリング	介護支援専門員とその職員が中心となっ	本人や家族等からの希望を確認したり、担当者会議で情報の収集、話し合いを行	
26	10	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	てアセスメントも行い、具体的な計画を 作成している。	い介護計画を作成している。 職員一人ひとりが個々の利用者の介護計 画の把握が十分にでき、ケアの統一がし やすいように、記録等の工夫がなされて いる。	
		○個別の記録と実践への反映	個別計画に日々の状態を、具体的に分かりやすく記録するように努めている。		
27		きや工夫を個別記録に記入し,職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。			
			法人内の他のサービスも紹介したり、利 用したりしながら、本人らしい生活が出		
28		本人や家族の状況,その時々に生まれるニーズに対応して,既存のサービスに捉われない,柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	来る様に努めている。		
		○地域資源との協働	地域柄から協力が難しいところがある。 理解のある方と、協力して頂けるところ		
29		一人ひとりの暮らしを支えている地域 資源を把握し、本人が心身の力を発揮 しながら安全で豊かな暮らしを楽しむ ことができるよう支援している。	から取り組んでいる。(美容院・月1回の法話等)		
		〇かかりつけ医の受診診断	があり、また、希望に応じて他の医療機	多くの利用者の方々が協力医を希望され ているが、以前からのかかりつけ医の継	
30	11	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と 事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	関でも診療を受けられるよう支援している。	続受診の支援も行っている。 受診時には医療機関に、事業所での利用 者の状態を家族や職員を通じて伝えた り、話し合いを繰り返し、信頼関係の構 築に努めている。	

自己	外部		自己評価	外部	外部評価	
	評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職員の中に看護師を配置し、日常の健康 管理が行えるようにしている。			
32		利用者が入院した際,安心して治療できるように,また,できるだけ早期に 退院できるように,病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は,そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態に応じて家族・医療機関と相談を行いながら支援している。入院中も様子伺いに訪問する等して、情報が共有出来る様に努めている。			
33	12	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを	入居後も身体状況に応じてかかりつけ医と相談しながら支援している。「看取りの指針」を入居時に説明し希望を記入して頂いている。状態が変化した時等、常	契約時に、急変時の対応について家族等 に説明し、家族の同意を得ている。 重度化や終末期についても家族、医師と の方針の共有を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて, 全ての職員は応急手当や初期対応の訓 練を定期的に行い,実践力を身に付け ている。				
35	13	〇災害対策 火災や地震,水害等の災害時に,昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を全 職員が身につけるとともに,地域との 協力体制を築いている。	施した。来年3月末までに災害訓練を実	められており、年2回、消防署の協力を		

次のステップに向けて 期待したい内容 アルに 職員も 配慮に に何え
職員も
職員も
行って
、職員 ビを消 会話の

白己	外部	_	自己評価	外部	評価
	評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
		〇栄養摂取や水分確保の支援	食事はホームで手作りしており、一人一 人の状態に応じた調理方法で提供してい		
41		食べる量や栄養バランス,水分量が一日を通じて確保できるよう,一人ひとりの状態や力,習慣に応じた支援をしている。	る。水分も3度の食事以外にも摂取して 頂けるよう声掛けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持□の中の汚れや臭いが生じないよう,毎食後,一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の歯磨きの声掛けや介助を行っている。定期的に義歯をポリデント洗浄したり、必要に応じて歯科受診や協力医院の往診を受けたりしている。		
		〇排泄の自立支援	排泄確認表を作成し、排泄の声掛けや介 助、失禁等の対応では、本人が不安を感	援のあり方や現状を家族と連携し、確認	
43	16	排泄の失敗やおむつの使用を減らし, 一人ひとりの力や排泄のパターン,習慣を活かして,トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	じない様に、また他の利用者に配慮しながら行っている。	しながら、羞恥心や不安を軽減した支援 が行なわれている。	
		○便秘の予防と対応	献立や水分摂取にも気を配っている。嚥下状態・病気・運動量を加味し玄米食を取り入れている。		
44		便秘の原因や及ぼす影響を理解し,飲食物の工夫や運動への働きかけ等,個々に応じた予防に取り組んでいる。			
		〇入浴を楽しむことができる支援	介助は衣類着脱から、洗身まで一人のス タッフが行うことで、機械的な流れにな らない様にしている。必要時にはスタッ	利用者の習慣や意向に沿った、スムーズ	
45	17	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように,職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに,個々に応じた入浴の支援をしている。	らない様にしている。必要時にはスタッフが二人介助に入り、安全に努めている。現在は、基本的には午後入浴時間を設けており、一人ひとりの希望が十分取り入れられていない面もある。		

自己	从实		自己評価	外部	評価
評価	評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
		○安眠や休息の支援	それぞれの居室でゆっくり休んで頂だい たり、縁側や和室・食堂にソファーを置		
46		一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	き、ゆったり座れる空間作りに取り組んでいる。		
47		○服薬支援一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活 かした役割、嗜好品、楽しみごと、気 分転換等の支援をしている。	家事や庭の草取り等手伝ってもらっている。季節感のあるお手伝い(栗の皮むきや柏餅作り・ふきの皮むき・ヨモギ採り等)も楽しんでもらっている。		
49	18	戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は、庭で日光浴する等戸外 へ出る事が出来る様努めている。	出てストレス発散、五感の刺激等を意識	
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切 さを理解しており、一人ひとりの希望 や力に応じて、お金を所持したり使え るように支援している。	個々の希望に応じて金銭を所時して頂いており、外出時等お金が使える様に支援しているが、実際にはその機会は少なく、取り組みとしては不十分である。		

	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
		○電話や手紙の支援	電話を掛けたいという希望があれば掛けてもらい、可能な利用者には、年賀状を 書いてもらったりしている。		
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように 支援をしている。			
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用 者にとって不快や混乱をまねくような 刺激(音、光、色、広さ、温度など) がないように配慮し、生活感や季節感 を採り入れて、居心地よく過ごせるよ うな工夫をしている。 ○共用空間における一人ひとりの居場所	なっており、鉢植えを並べたり、木の温もりのある表札を掛けたりしている。玄関や共用の和室が昔ながらの民家を移築した物となっており、懐かしい雰囲気がある。		
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所 づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気 の合った利用者同士で思い思いに過ご せるような居場所の工夫をしている。	ソファーやベンチ・椅子等を共用空間や 廊下等に置き、自分の好きな場所で過ご せるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたもの や好みのものを活かして、本人が居心 地よく過ごせるような工夫をしてい る。	や生活用品を持ち込んで頂き、その人ら しい部屋作りに取り組んでいる。	入居時に使い慣れた品を持って来ていただき、その人らしく安心して過ごして貰 えるように支援している。	
55		(4)	各要所へ手すりを設置し、玄関には椅子を置いて靴を安全に履いたり出来るよう工夫している。手作りの日替わりカレンダーを食堂に貼ったり、居室入口にはそれぞれの花を飾ったりしている。		

V アウトカム項目				
			①ほぼ全ての利用者の	
56			②利用者の3分の2くらいの	
	職員は,利用者の思いや願い,暮らし方の意向を掴んでいる。		②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの	
			④ほとんど掴んでいない	
			①毎日ある	
57			②数日に1回程度ある	
	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		③たまにある	
			④ほとんどない	
			①ほぼ全ての利用者が	
58	10円本は、 しなしける。 ライ苺ごしていて	O	②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
38	利用者は,一人ひとりのペースで暮らしている		③利用者の3分の1くらいが	
			④ほとんどいない	
			①ほぼ全ての利用者が	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	0	②利用者の3分の2くらいが	
39			③利用者の3分の1くらいが	
			④ほとんどいない	
	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が	
60			②利用者の3分の2くらいが	
	利用有は、アグドへの1]さたいとこうへ出かりている		③利用者の3分の1くらいが	
			④ほとんどいない	
	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	0	①ほぼ全ての利用者が	
61			②利用者の3分の2くらいが	
"	中国用語、庭旅音社で区派面、文主面でTr文なく過ごとでいる		③利用者の3分の1くらいが	
			④ほとんどいない	
	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して		①ほぼ全ての利用者が	
62		0	②利用者の3分の2くらいが	
02	暮らせている		③利用者の3分の1くらいが	
			④ほとんどいない	
			①ほぼ全ての家族と	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いて	O	②家族の3分の2くらいと	
03	おり、信頼関係ができている		③家族の3分の1くらいと	
			④ほとんどできていない	

		①ほぼ毎日のように
 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来てい		
	\circ	②数日に1回程度
న -		③たまに
		④ほとんどない
運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がり や深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くいない
		①ほぼ全ての職員が
	O	②職員の3分の2くらいが
「「「「「「「」」」		③職員の3分の1くらいが
		④ほとんどいない
		①ほぼ全ての利用者が
	\circ	②利用者の3分の2くらいが
職員から見く、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		③利用者の3分の1くらいが
		④ほとんどいない
職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思		①ほぼ全ての家族等が
	O	②家族等の3分の2くらいが
5		③家族等の3分の1くらいが
		④ほとんどできていない
	る 軍営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がり	

2 目標達成計画

事業所名 グループホームみら屋 平成 24 年 3 月 18 日 作成日

【日煙達成計画】

	けい はいりょう はいしょう はいしょう はいし はいし はい	達成計画 】			
優先順位	項目番号	現状における 問題点, 課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	地域との交流に努めているが、まだまだ不十分で日常的な交流には至っていない。		①地域の住民にも声をかけて運営推進会議や消防訓練に参加していただき、定期的な交流のきっかけ作りを行う。 ②地域の住民と一緒にできる行事を計画する。	1年
2	18	える関係〉職員は本人 を介護される一方の立	い一日ありがとう」	①個々のプランに、本 人の役割や、楽しみ事 を具体的に明文化す る。 ②職員会議や、ケース 会議などを通して、職 員間の意識を高める。	1年